第５回「富士見丘小学校教育環境懇談会」概要

日　時	2014年2月28日（金）　15:00-16:15
会　場	富士見丘小学校　視聴覚室
出席者	委　員　　９名 事務局　１１名
配付資料	第４回議事録 富士見丘小学校教育環境懇談会まとめ（案） 資料１　　富士見丘小学校及び富士見丘中学校大気環境測定状況等について
議事次第	１　開会・連絡事項 ２　議題（資料説明・意見交換） ・報告書案について ３　閉会

第５回「富士見丘小学校教育環境懇談会」議事録（要旨）

（発言者敬称略）

１．開会・連絡事項	
学校支援課長	傍聴希望者の申し込みはなかった。
２．議題：懇談会まとめについて（資料説明は略）	
議長	今日はまとめの議論である。中間まとめの議論では、懇談会としては、富士見丘中学校に隣接する企業用地に富士見丘小学校を移転し、富士見丘中学校と一体的に活用するというB-2案に検討を広げてきた。次年度以降、中学校関係者をはじめ、いろいろな人たちの意見を聞きながら、引き続き検討を進めるべきということになった。それも踏まえて、懇談会のまとめ案を用意してもらっている。今日はできるだけ意見を伺い、それを反映しながらまとめるようにしたい。
学校支援課長	高井戸公園の整備に関連して、平成25年の東京都議会において、王子製紙のグラウンドを高井戸公園用地として購入する議決をしているそうである。
（１）環境測定データの扱い	
議長	これまでに環境測定のデータをいくつか出してもらったが、その代表的な数値を資料に入れておくとよいかも知れない。あまり細かい技術的な資料は不要だが、この報告にもとづいていろいろな動きを起こす時に、数値データもある方がよいようにも思う。今日のデータを加えるかどうかということもあろう。
学校支援課長	東京都による放射５号線関連の将来予測は、別添資料の資料４に入れている。
学校教育担当部長	今日の資料にある中学校と小学校の比較データを見ると、ずいぶん違うことがわかる。中学校の数値は小学校の半分程度だ。判断材料としては大きいように思う。環境基準をクリアすることはわかっているのだが、移転すると間違いなくより改善されることが今日の資料でわかる。報告書の資料に追加した方がよいと思う。
副議長	数値の厳格さよりも、幹線道路からの距離で変わるという資料に使ったらよいのではないか。また、まだ放５は本格供用開始していないわけなので、本格供用開始やオンランプの動きによってはかなり変化があり得る。供用開始前の状況はこうだと言っておく必要がある。供用開始したかどうかですごく変わると思う。
副議長	環境アセスのデータはみんな知っているのだが、環境アセスに対する地元の信頼度があまり高くない雰囲気も感じるので、それを補足する意味でも中学校と小学校の比較データはあるとよいかも知れない。これは予測でなく実測データだ。
環境課長	富士見丘中学校のデータは、高井戸清掃工場の建て替えで実施した環境アセスのもので、今回のために測定したものではない。また、小学校は現在の位置にある限り、今後も継続的にデータを計測していくが、中学校では計測していない。必要があれば計測しなければならないが、急にはできない。一定の段取りが必要になる。
議長	その辺りも含めて、中学校と小学校の比較データを、報告書の12ページに誤解

	のないように盛り込むことを検討してもらいたい。「現時点でデータを比較するとこうなっているが、放５の本格供用等に伴い異なってくるだろうから、しっかり点検していく」といった文章を補足した上で、資料を追加する感じだろう。資料自体にもその辺りを追記する必要がある。この報告書で多くのデータを並べるのもおかしいので、全体のデータは、都の出しているデータで代表しておけばよいだろう。
（２）交通量増加に伴う交通安全上の問題	
委員	放５の整備で自動車交通量が倍増するというデータも資料４に載っているか。
学校支援課長	別添資料の資料４には将来交通量の予測も出ている。
委員	住んでいる地域の環境ということで考えれば、道路自体の交通量は増える。学校の敷地としては幹線道路から離れればいいのだろうが、地域としては道路整備の影響で大変なことになる。学校だけがいい場所に移り、地元の道路環境は考慮していないのではないという辺りを入れたい。環境基準だけでなく、通学時の交通事故の危険性といった意味では、移転した場合でも注意を要する状況を迎えるわけなので、その辺りも懇談会では配慮しているというまとめになっているとよいと思う。
学校支援課長	今日の案では、交通量が増えることへの懸念は残るという書き方をしている。
議長	それではやや弱いということだろう。
委員	懸念は残るというだけではなく、区としても、そういうところを配慮するように都に働きかけるというくらいのことは書いておいた方がよいのではないか。
副議長	この問題は、この場で解決する課題ではない。放５本線や副道の整備の考え方の中で、沿道市街地になるべく通過交通が流入しないような措置について話し合いをしているので、そこでの議論だと思う。区では周辺の地区計画等を検討しているので、そこに活かすとよいだろう。
都市整備部調整担当課長	放射５号線については、本線を高速道路の高架下に集約する事業の説明会が開かれているが、側道は沿道に与える影響が大きいので、個別に説明をしているところである。平成26年度以降は、引き続きこういった機会を継続して、安全面等を話し合いながら、道路の形や植栽の種類などを検討していくことになっている。
副議長	放５から小さい道路には直接入れない構造にする方向で近隣と話し合っている。入れるところを制限している。これまでのように、直接道路からどこでも脇道に入れるようにはならない。
議長	東京都の説明会や意見交換の機会には富士見丘小学校として参加しているという形式があるのか。
都市整備部調整担当課長	五者協議会の確認書で、放射５号線の暫定供用を変更する場合には、都とPTAで話し合うことになっているので、地域に説明する前にPTAに説明している。
（３）懇談会としての方向性の示し方	
議長	10ページの方向性について、事前に事務局とも意見交換を行い、「B-2案の考え方を目指すべきであるとの方向でほぼ一致した」という表現にしている。これは、欠席された委員もいるし、上高井戸地域のこともあるので、「一致した」とまでは言えないのではないかと考え、このような表現にしたのだが、この辺りはどうだろうか。方向性が出たと断定的には書きにくいので、次への取っ掛かりとしてB-2案

	を検討してみてはどうかというくらいのニュアンスなのではないか。
副議長	この辺りの書きぶりは、行政の今後の動き方にとって、重要な部分だろう。強く押した方がよければ「ほぼ」を削除する方がよいかも知れない。
委員	個人的には、ぜひB-2案で進めてほしいと思う。
議長	むしろ「ほぼ」がなくてもよいという議論があったということで、その辺りを欠席の委員にも確認してもらい、支障がないようであれば、「ほぼ」を削除して「一致した」という文章でまとめることとしたい。
（4）次年度以降の展開の見通し	
委員	まとめの期限がいつまでなのかにもよるが、都議会が企業用地の購入を決めたというようなことなど、そこまでの最新情報を盛り込んでもらうとよいと思う。
議長	例えば、4ページの高井戸公園のところに、12月の都議会で用地取得が議決されたというようなことを補足すれば、リアリティが高まるということだろう。
学校教育担当部長	このタイミングを逃さずに購入の意思表示をしていかないといけないだろう。
委員	この報告書が出て、実際に計画などが動くのがいつなのか、見当がつかない感じもあり、日程的なことが盛り込めるとよいと思う。別添資料にある「グランドデザイン」は平成21年3月に出て、それがようやく動き出すということなので、なかなか時間がかかることだと思ったが、今回の懇談会のまとめも動き出すまでに数年くらいはかかるのではないか。実際に計画として動くのがいつなのかがわかるとよい。状況が変わったらせっかくのまとめもやり直しに戻るような気もする。
学校支援課長	懇談会は平成25年度内でとりまとめたい。今後、中学校や地域関係者を交えて話し合いをしなければいけないので、それは平成26年度にやっていく必要がある。何年か経てばB-2案の計画ができるということではない。
委員	放射５号線の事業は、来年にも動き出しそうだ。その辺りもどこかに書いておいた方がよいのではないか。道路から150mくらいの範囲の人たちに資料を配るというふうに町会に連絡があった。それにより、環境面を考慮して移転を早めた方がいいとか、今の場所にいた方がいいというような議論が出てくるかも知れない。その辺りはどう考えたらよいだろうか。
議長	全体のスケジュール感を過去の懇談会で資料を示してもらったことがあるのではないか。放５にせよ高井戸公園にせよ、将来的にどうかということを示すと、逆効果となる可能性もあるが、今後、地元や保護者が話し合う時に、過去からの経緯を時系列で大まかに把握できると、話しやすいようにも思う。
新しい学校づくり係長	第２回懇談会で、学校改築の場合の一般的なスケジュールを提示している。杉並和泉学園と井草中学校の例を示したものである。ただし、いずれも今回のケースとイメージは異なるように思う。同じようなものとして比較するのは難しいと思う。
議長	平成何年頃の実現を目指すというような書きぶりは難しいということか。
新しい学校づくり係長	こういう場合に気をつける必要があるのは、不確定なものとして書いた表現が既成事実のように風評が流れるということだ。不要な誤解を招きかねず、慎重に取り扱った方がよいと思う。

学校教育担当部長	実際にこれをやろうとすると大変な事業になる。土地の取得や校舎の改築に大変に予算が必要となる話なので、簡単に動き出せる事業ではない。ステップを踏んで、理解を得ながら進める必要がある。一番大きいのは富士見丘中学校との関係だと思う。これまで何の話もしていない。この懇談会報告を踏まえて話し合いを始めようということなので、それをいつまでにと明記するのは難しいのではないか。
議長	企業用地の購入などを考えるとすると、いつからどうするのか、財源をどうするのかという議論が議会でもなされ、それが地元に返ってくるというようなことになるだろう。
議長	次年度のどこかで、この問題についてこういう議論がなされたということは、議会に報告するのだろう。
学校支援課長	教育委員会に説明した後、議会の文教委員会に報告することになる。
３．懇談会を終えるにあたり　～夢のある将来に向けて～	
（１）報告書のとりまとめ方	
議長	最終的な修正点として、細部は別にすると、10ページの方向性で「ほぼ一致した」という表現を「一致した」とする方がわかりやすいので、欠席の委員に確認の上、修正してもらうことと、12ページの資料として、中学校の測定結果を、誤解のないような解説を文章にして追加してもらうという２点が大きな修正だ。また、委員名簿に内藤委員の名前の追加も必要だろう。最終的なとりまとめは一任してもらい、報告書が完成した時点でこの任務が解けるという形にしたいと思う。
新しい学校づくり係長	要綱上は、所掌事項に関する検討を終了した日までということになっている。この報告書が完成した時点で任期が終わるということである。
学校支援課長	議長一任でまとめてもらった報告書を、各委員に確認してもらった上で、最終版を確定したいと考えている。
議長	こういう話を地元の人に打ち出すとすると、来年度以降、必要に応じて要約版を検討してほしいという議論があったが、その辺りはどうか。このまとめを読めというのは、なかなかつらいものがある。見開き４ページくらいでよいだろう。
学校支援課長	概要版については、検討していきたいと思う。
（２）今後への期待など	
議長	最後なので、感想や希望でもよいが、一言ずつ発言をいただきたい。
委員	上高井戸地域の子どもたちにとって遠くなる点は気になるが、教育の場として、緑の多くて広いところで、しかも中学生と一緒に活動できるということは、将来の成長の過程においてもよいことなのではないかと思う。幹線道路から少し離れるだけでこれだけ大気環境の数値も変わるということで、B-2案を強く推したいという気はする。移転すれば、富士見丘通りの問題も前進するように思う。少しでも拡幅でき、安心して通れる道にできればという思いはある。
委員	移転すれば通う距離が長くなるし、そのことを地域に説明する必要もある。しかし、例えば直下型地震の時のことなどを考えると、一緒に学んでいない、世田谷区に通う子どもが多くいるという状況よりも、地域のまとまりという点では、一人で

	も多くが富士見丘小学校に通い、一緒に生活するということが大事になっていくと思う。その辺りを考慮したい。
委員	483人の学齢期人口のうち、富士見丘小学校に通うのが274人で、４割以上が他校に通学しているというのは、すごい数字だと思う。登下校の見回りをしているが、富士見丘小学校の前を通って高井戸小学校に通う子どもたちを見ながら、なぜ富士見丘小学校に通ってくれないのだろうと思ったりもしていた。もし、中学校と一体になれば、中学生が一緒に登下校できるようになり、そういう面でもよいのではないか。地域の我々だけでは、どうしても目が届かないところもあるので、いろいろな目が届くようになるのはいいことだと思う。
議長	今の２人の発言は大事なことなので、うまく書ければ盛り込みたいが、誤解も招きそうだ。次年度以降、その辺りも掘り下げながら進めていけるとよい。
委員	B-2案が実現し、公園も使えるようなことになると、他の地域から富士見丘小学校に通う子どもが増え、教室が足りなくなるようなことになるのではないか。
学校教育担当部長	学校希望制度は終わるので、基本的には地域の子どもたちが通うことになるだろう。今の流出状況が少し防げるのではないかという希望はある。
委員	B-2案は、考えることもたくさんあるし、やらなければいけないこともたくさんあるだろうが、夢は広がると思う。学校が魅力的になれば、ここに住みたいと思えるようになると思う。この学校に通わせるためにこの辺りに住む人が増えてくれれば、学校も賑やかになる。将来、そこに通う子どもたちにとっていい環境になるように、いろいろな面で配慮してもらえるとよい。
委員	富士見ヶ丘駅は、井の頭線の始発駅だ。お父さんたちの通勤にもすごく便利だ。
委員	同じ地域で違う学校に通っている子が多く、地域としての一体感がないことを改めて感じた。地域の子どもたちが同じ学校に通えるといいと思う。 B-2案が実現できた時に、一番心配なのは通学のことだ。おそらくオンランプもそのうちつくられるだろうと思うし、その辺りも検討してもらいながら、実現できるとよいと思う。
委員	最初は現状維持がいいように思っていたのだが、B-2案がよいと思うようになってきたので、話し合いを重ねるということは大事だと思った。B-2案は夢のある話だし、あまり先のことは考えられないが、こういうことを話していると、そういう夢も持ててよかった。 B-2案になった時に、今の学校用地が何に転用されるのかが気になる。学校の場所としては少し環境が悪いかも知れないが、別の用途で使うには便利でいいところだと思う。将来のことだが、この場所をどう使うか、この場所の環境が、子どもたちだけでなく全ての年代の人たちにとっていいものとなるようになっていくとよいと思う。いろいろな使い方が考えられると思う。
委員	学校教育にとって、環境はものすごく大事な部分だ。子どもたちにとって、まず先生や友だちという人的な環境があるし、どこに立地しているのかという環境もとても大きい。建物施設もとても大きな環境だ。そのうち、２番目、３番目の要素をこの懇談会で話し合ってきた。よりよい環境を子どもたちに提供していく、子ども

	たちだけでなく、地域にとって提供していこうと意見を出し合ってきたのだと思う。よりよい形で教育環境をつくっていけるとよいと思う。
副議長	杉十小学校の移転前後を５年間にわたり調査した。公害が大変になると、新入生が20人を切るような状況になり、遊ぶ時にも元気がない。天気がよければ光化学スモッグが発生して外では遊べない。プールも汚れて使えない。遊びもできず、スポーツもできないとなると、描く絵なども暗くなってきてしまう。それが公園の隣に移転すると、同じ子どもたちとは思えないほど元気になるし、作文も絵も全然違う。すごく変わる。学校の立地環境の大事さは身を持って知っている。放射５号線の供用開始前に、区がこういう懇談会を開いて意見を聞いているというのは、すごく進歩していると思う。杉十小の時は公害が起きてしまってからの話だった。最初は何の懇談会だろうと思ったかも知れないが、先んじて動くということはとても大事だと思う。これは非常に大事な機会だったと思う。
議長	杉十小では、子どもたちが元気になったと同時に、周りの大人たちも元気になった。町会をはじめ、学校を街で支えようという雰囲気ができた。今でも続いている。
副議長	学校を大事にするということが地域の文化になった。
議長	それは移転の功績だった。学校の中だけで閉じていい学校にするのではなく、地域の人たちがいい学校にしようとしている。特に校庭などが地域に開放型だったので、地域が関与しないと運営できないという面もあったが、今回もB-2案で言えば、高井戸公園をどう使うかについては、地域ぐるみで議論しないといけないだろう。
学校教育担当部長	この懇談会をやってよかった。施策を進める立場として、地域や学校関係者の皆さんの意見を聞けたのは、すごく参考になった。また、最後に「夢の持てる方向性」という言葉が出たことをすごく嬉しく思う。できれば、この方向性を目指して施策を進めていきたい。子どもたちにいい成育環境を整えるということはとても大事なことだと思う。
議長	夢を広げたいという意見があったことは、議会などでも披露してもらいたい。 大変難しい議論だったし、今後、さらに難しいこともわかってきたが、夢を持って、区にも頑張ってもらいたいし、地元もそこに期待したいという、大変前向きな結論が得られた５回の会議だった。ご協力に感謝したい。